

広島大学病院

大学病院のリウマチ・膠原病科が主導し、 県内のリウマチ医療の構造的な課題解決を。

広島大学病院は、リウマチ医療の質の向上をめざし、2009年1月、新たにリウマチ・膠原病科を開設し、富山大学附属病院より杉山英二先生が教授として着任した。

杉山先生の陣頭指揮のもと、臨床、教育、研究と大学の使命に真摯に向き合う一方で地域における連携も深め、県内リウマチ医療の新時代をもたらしつつある。



リウマチ・膠原病科教授

杉山 英二先生

地域の現状への危機感から 大学病院が診療科を新設

広島大学病院のリウマチ・膠原病科新設は、杉山先生に新たな決意を促した。

「患者さんが増え続ける一方で専門医不足に悩む広島県のリウマチ医療を強化するために、広島大学医学部第2内科の一部門であったリウマチ・膠原病部門を独立させるのは理に適っていると思いました。また、大学病院におけるリウマチ・膠原病科で先進的な取り組みにかかわれる喜びもありました。診療の充実と人材育成を自らのテーマとして、広島のリウマチ診療の向上に貢献したいと

思いました」

2009年1月、リウマチ・膠原病科が開設されると、杉山先生はすぐに診療の充実に向けた取り組みを開始し、「チーム医療によるリウマチのトータルケア」を目標に掲げ、スタッフの意識統一を図った。

「チーム医療の進展には、診療科間の垣根の低い当院の風土がとても助けになりました。第2内科は呼吸器、腎臓、内分泌代謝、膠原病の4専門科で構成されていたので、リウマチの合併症に対する院内連携はすでに十分に機能していましたし、整形外科とはリウマチ外来が隣接しており、迅速に相談ができました。そうした恵まれた環境で、将来的には

看護師、薬剤師、理学療法士など多職種によるリウマチ診療チームを編成したいと思います」

患者教育が可能にする 診療の質向上

杉山先生のめざす「トータルケア」の最大の特徴は、患者教育にある。「欧米の進んだリウマチ医療とくらべ、日本がもっとも後れているのは『患者さん自身で行う判断』だと思います。抗リウマチ薬と生物学的製剤の登場以降、リウマチの内科的治療は、目覚ましい進歩を遂げましたが、その一方で、治療方針の決定に難しい判断が求められるようになりました。」

日本の患者さんは医師任せの傾向が強いのですが、患者さんが治療の選択肢を理解したうえで自ら判断し納得して選択することが真のトータルケアの前提なのです」

杉山先生は、患者の意識向上を図るための活動を前任地の富山大学附属病院で「リウマチ教育検診入院」というプログラムで実践した。これは、1回4名限定でさまざまな検査を実施すると同時に、リウマチに関する医学知識を講義する1週間の教育入院で、20名以上のチームスタッ



回診の様子

フが患者のケアと啓発にあたる。全国から注目され、地域のかかりつけ医からの紹介患者は大きく増えた。「急性期病院で入院患者が多い当院では、残念ながらすぐに同じプログラムを稼働させることができません。現在、ベッドに余裕のある近隣の病院と連携し同様のプログラムを開始する構想を練っています」

自ら先頭に立ち 人材育成に傾ける情熱

杉山先生が重点課題とするもうひとつの取り組みが、専門医不足解消の鍵となる人材育成だ。「広島県のリウマチ医療は、民間病院が牽引してきましたが、それがやがて都市部に集中することで専門医の偏在が起こり、患者さんの受療機会に地域格差が生まれてきました。さらに、民間病院のリウマチ医療では、長期的なキャリアプランを描き

づらく、若手医師から敬遠され、人材の不足と偏在が助長されていったようです」

杉山先生が掲げるリウマチ医の育成方針は、簡潔で明快だ。「全身を総合的に診られる技能を持ったうえで、リウマチの専門知識を

身につけた人材を育成していく方針です」

ローテートしてきた初期研修医には、必ず外来診療時に同席させ、杉山先生自身の臨床の技能を実地で教える。広島大学医学部に設けられたプログラム「アドバンスコース」では、5年生、6年生に徹底的に臨床を体験させるため、患者に触れる機会を用意した。

開設から4年、こうした施策は着実に実を結ぼうとしている。広島大学の卒業生にリウマチ・膠原病科を志す者が増えたほか、同院のリウマチ医療と指導内容を知った専門医や後期研修医が杉山先生を慕って全国から参じる動きもある。

「病院の中で、リウマチ・膠原病科は各診療科をつなぐ『結合組織』のような存在だと、私はよく言います。リウマチ・膠原病疾患は他科の協力がなしでは治療できないため、診療科間をつなぐ役割を担い、さらに病院全体の医療の質を向上させるエンジ



新診療棟外観



リウマチ・膠原病科の皆さん

ンのような存在にもなれるのです。そこにまで思いが及べば、この分野のやり甲斐の大きさが理解できるはずです」

診療基盤整備の先に 見据える広島発の研究成果

杉山先生の視線は常に広島県内全域に向けられ、さまざまな施策は、同院だけではなく、県内のリウマチ医療の底上げと質の向上をめざして進められている。

「県内の基幹病院に、リウマチの指導医クラスの人材を各1名配置し、その下に専門医が数名常勤してリウ

マチ医療の基盤とします。そのうえで、地域のご開業の先生方と網の目のような連携を構築し、リスクの高い生物学的製剤治療などについて、いつでも相談ができる体制、急変時に即座に救急対応できる体制をつくる——私たちが描くのはそんな理想像です」

着任から5年、理想に向けて歩み続ける杉山先生は、さらに新たな構想をあたためている。

「診療の充実と人材育成にめどが立ち始めたところで、もうひとつの大学の使命である研究への足がかりも探り始めています。患者さんが多

く、豊富な症例が集まる広島県は、リウマチの先進的な研究には恵まれた環境にあります。当院発、広島県発の研究成果を世界に発信できるよう、環境整備を開始したところで

DATA

広島大学病院

所在地：〒734-8551

広島県広島市南区霞1-2-3

TEL：082-257-5555

URL：<http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/>

病床数：746床

*同院ホームページより転載